駒大13年ぶりV

明大に3―0 最多タイ5度目

大学の部

明治神宮野球大会 最終日

（19日・神宮）

大学の部決勝は、駒大（東都）が明大（東京六）に3―0で勝ち、前回出場した2001年以来、13年ぶりの優勝を決めた。5度目の優勝は明大と並んで大会史上最多タイ。駒大は阪神からドラフト3位指名された江越大賀中堅手（4年、長崎・海星）が1安打2打点を含む全3得点に絡む活躍を見せ、中日などが来年のドラフト1位候補に挙げる今永昇太投手（3年・北筑）がリリーフで締めくくった。オリックス1位指名の明大・山崎福也投手（4年・日大三）は先発で8回途中まで力投したが、打線の援護がなかった。

【大学】▽決勝

明大（東京六大学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駒大（東都）	0	0	0	0	0	1	0	2	x	3

（駒大は13年ぶり5度目の優勝）

【明大】				打	安	点
（遊）	福田	④	（広陵）	2	0	0
（二）	糸原	④	（開星）	4	0	0
二	宮崎	①	（履正社）	0	0	0
（中）	高山	③	（日大三）	4	1	0
（一）	石井	③	（履正社）	4	0	0
（左）	菅野	③	（東海大相模）	4	0	0
（三）	植田	④	（関西）	4	1	0
（捕）	坂本	③	（履正社）	3	0	0
（投）	山崎	④	（日大三）	3	0	0
投	柳	②	（横浜）	0	0	0
（右）	小倉	③	（関西）	2	1	0
振球犠併残	102106			30	3	0

【駒大】				打	安	点
（遊）	砂川	④	（明豊）	4	1	0
（二）	前田	③	（京都外大西）	3	1	0
（右）	下川	④	（筑陽学園）	3	1	0
右	小森	④	（福岡大大濠）	0	0	0
（中）	江越	④	（長崎・海星）	4	1	2
（左）	斎藤	④	（愛知）	3	0	0
（三）	米満	①	（敦賀気比）	3	1	0
（一）	福山亮	④	（東海大相模）	3	1	0
一	巻木	③	（明石商）	0	0	0
（捕）	高橋亮	②	（埼玉栄）	2	0	0
（投）	東野	①	（履正社）	1	0	0
打	長谷川	②	（東海大菅生）	1	0	0
投	今永	③	（北筑）	1	0	0
振球犠併残	81204			28	6	2

三福山亮、江越　盗駒2　失明1、駒1　捕高橋亮

投手	回	打	安	振	球	失	責
●山崎	7⅔	30	5	8	1	3	2
柳	⅓	1	1	0	0	0	0
東野	5	16	0	6	0	0	0
○今永	4	17	3	4	2	0	0

江越 全力疾走で決めた！

勝負を決めたのは主砲だった。高校時代もなかった日本一。ナインから胴上げされた駒大の江越は、「苦しい戦いでしたが良かった。実感はまだありませんが、これから湧いてくると思います」と喜びをかみしめた。

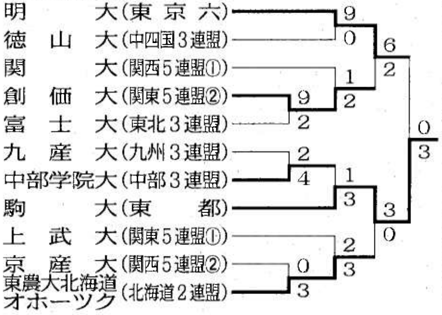
先制点は6回。2死二塁で、砂川がノーサインで盗塁成功。その後、江越は三遊間深くへのゴロを放ったが、遊撃手から送球を受けた一塁手がミットに当てながら落球する間に、三塁走者が生還した。頭から滑り込んだ江越は「全力疾走しただけ。誰でもできることをしただけです」と照れ笑い。8回の2点打は、柳の直球を打ち損じながらも遊撃手の後方に落ちる二塁打。明大を突き放す大きな追加点だった。

高校時代に日本一を経験した選手はいない。昨秋には、入れ替え戦も経験したが、4年生を中心に、どうしたら勝てるかを考えてきた。「当たり前のことを全力でやろうと話した。駒沢の野球は、泥くさく基本を守る野球」と江越は言う。駒大野球の原点を貫いた。（小原栄二）

優勝し、ナインに胴上げされる駒大・江越＝神宮球場で（斉藤直己撮影）

◆明治神宮野球大会の結果＆組み合わせ◆

【大学の部】



4回裏駒大2死二塁、投ゴロに倒れる斎藤

入学時 寮にも入れなかった苦労人

斎藤（愛知高出身）5番でけん引

愛知県刈谷市出身の駒大の斎藤導久（みちひさ）左翼手（4年・愛知）も自身初の全国制覇に「夢みたい。実感が湧かない」と目を輝かせた。初戦の中部学院大戦で追加点を挙げるなど今大会3試合に5番打者としてフル出場、日本一に貢献した。

高校時代は全国舞台に立てなかった。「東都でプレーしたい」と指定校推薦で駒大に進学。入学当初は野球部の寮にも入れてもらえなかった。地道に努力を続け、2年春からスタメン。今春リーグ戦ではベストナイン、今秋は全試合に出場して7打点。13年ぶりのリーグ優勝に欠くことのできない存在だった。「日本一で終われて良かった」。卒業後は東海理化でプレー。地元に戻り、社会人野球でも頂点を目指す。（安達健）